

## ■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長  
白井 巧文



### ■ 市民のみなさん、「どうしちよる」

11月22日の土曜日、市民館で、今年も本市の社会福祉大会が盛大に開かれました。本市社会福祉協議会の某さんは、「福祉」とは「幸せ」のことだと言われます。そのためには、本人の努力、周囲の支え、行政のお手伝い、その他、いろんなものを手掛かりに、市民のみなさんが「生きる幸せ」を少しでも実感できるような生活環境、地域社会の整備が不可欠であると痛感しています。

平成23年度に社会福祉協議会が募集した福祉標語の最優秀作品は、『「どうしちよる」声かけつなぐ 福祉の輪』でした。この標語を口にすると、声をかけた人と、声をかけられた人との間に、温かい福祉の風が流れるのを感じます。「どうしちよる」のひと声を、本市の「福祉の合言葉」にしてみたいかがでしょうか。（その後、社協が「どうしちよるネット事業」を早くから推進していることを知りました。）

### ■ 「有帆川大橋」を歩こう

待ちに待った「小野田湾岸道路」が12月20日に開通します。午後1時、県主催の開通式があり、その後、午後4時ころから一般市民に開放されるそうです。片側1車線ですが、道路には歩道もあるので、「有帆川大橋（長さ478m）」の上からは、お天気次第で、河口から遠く九州を眺めることもできます。これまで経験したことのない視界や眺望を楽しみなが

ら、「有帆川大橋」を歩いて渡ってみてはどうでしょうか。

ちなみに本市の観光協会が、開通式の前に、「有帆川大橋」の車道を歩きながら眺めを堪能し、その後、開作の歴史が多く残る高泊地区を巡る「小野田湾岸道路開通記念ウォーキング」を予定していますが、悲願の開通ということの表れでしょうか、受付開始からわずか2日で定員いっぱいになったそうです。

本当の渡り初めは、「後者」というべきでしょうかね。開通の前に、このような催しを許可するなんて、県の行政も対応が柔軟になってきたことの一つの証のような気がします。嬉しいですね。

